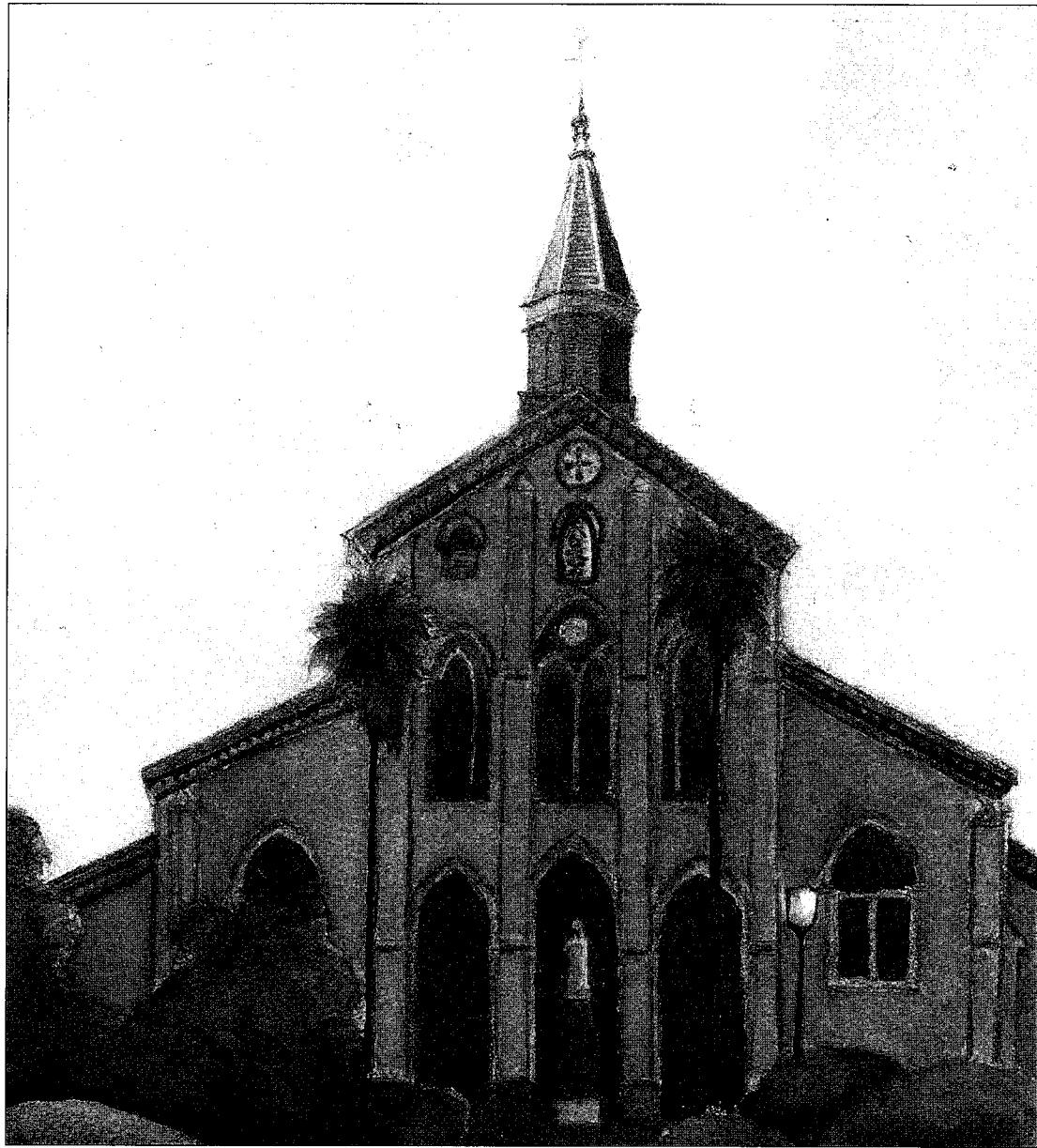




東京都家庭薬工業協同組合会報

# かていやく

平成13年7月 通巻69号



# かへていやく

本組合は、組合員の相互扶助の精神に基づき、組合員のために必要な共同事業を行い、もって組合員の自主的な経済活動を促進し、かつ、その経済的地位の向上をはかることを目的とする。

定款 第1章 第1条(目的)より

## 目 次

通巻69号 2001年7月31日

特別企画——薬の本の著者に聞く 『なるほど! 読めばなお効く家庭薬』	3
おじいちゃんのひとりごと	10
家庭薬ロングセラー物語／わかもと製薬(株)	12
インターネット利用状況アンケート結果	14
薬事トピックス／厚生労働省ガイド	17
委員会だより	18
総務、薬事、GMP、流通、厚生 労務、インターネット、消費者対応 情報協業化、広報広告	
事務局だより	24
編集後記	
表紙題字／第4代理事長 津村重舎 表紙絵「大浦天主堂」／相談役 堀 泰助	

## 特別企画 薬の本の著者に聞く

# なるほど! 読めば なお効く家庭薬

この世界に登場する家庭薬。本屋さんには、薬についてさまざまな視点からアプローチされたユニークな本が並んでいる。そんな本を著した、薬に関して一家言を持つ著者の方に話を聞いたら、どんなメッセージが返ってくるのだろうか。

明治・大正期の売薬広告に魅せられた町田忍さん。薬局のことならなんでもござれの唐沢俊一さん。薬のパッケージのおもしろさを語る田中聰さん。ドラッグストアの目利き、中澤天童さん。薬にまつわる著書のある4人に迫る。



# 『仁丹は、なぜ苦い? 明治・大正期の薬品広告図版集』著者 町田 忍さん

昔の薬品広告は大胆でユニーク、オーバーでぎやか。そんな広告を切り口に、薬の歴史を眺めてみたらきっとおもしろいに違いない。銭湯研究でおなじみの庶民文化探究家、町田忍さんにお話を伺う。

## 薬品広告はおもしろい

——本書には明治・大正期の薬品広告がたくさん登場していますね。

そのころの薬の広告やパッケージは、表現のオーバーなものが多くてとてもおもしろいんですよ。とくに「仁丹」はその広告量が他を圧倒していて、なおかつおもしろい。

もともとは正露丸のパッケージデザインが気に入って、薬に興味を持ち始めました。正露丸の資料を集めているうちに、明治・大正期に薬品広告が多いことに気がついたんです。しかもその広告がユニーク。それであつたいつ薬品広告の世界に惹かれてしまったんです。

——最近の薬のパッケージや広告については、どのような印象を持っていますか。

最近の薬のパッケージデザインは規制が厳しいせいか、遊びがなくておもしろみがないですね。広告も昔のようなばかばかしさがない。ただ富山の配置薬にはちょっと残っているかな。家庭薬メーカーさんには、なじみ深い薬のパッケージデザインをそのままにしておいてほしいですね。



町田 忍 (まちだ・しのぶ)  
1950年、東京都生まれ。見落とされがちな庶民文化における風俗意匠を研究。フォトエッセイストやコラムニストなどとしても活躍中。主な著書に『蚊遣り豚の謡—近代日本殺虫史考』(新潮社)、『痛快!捨てない!』(技術出版社)などがある。現在、「漫画サンデー」に「町田忍のこだわり図像学」を連載中。

『仁丹は、なぜ苦い?』(ボランティア情報ネットワーク:絶版)明治・大正期のオモシロ薬品広告集。仁丹を中心に、明治中期から大正期にかけての薬品広告を紹介している。本書に登場する広告を通して、当時の人々の生活そのものを垣間見ることができる。



『ふらり散策 懐かしの昭和』  
(扶桑社: 1333円+税)  
ノスタルジーに彩られた  
原風景を探す、昭和の街並みガイド。  
既にない建物を含め、懐かしい建築物を写真で  
紹介する。薬局散策や懐かしの薬広告も登場。

## 家庭薬メーカーに感心

——家庭薬メーカーにも取材に来ていただきたいことがあるそうですが。

伝統ある家庭薬メーカーさんの中でも、定番商品一本で営業を続けているような会社は宣伝がしっかりしていて、電話の対応もいいですね。社員教育が行き届いているという印象を受けました。また、それぞれの薬は現代向けに改良されているのでしょうか、100年以上もの長い間、原料を集めたりしているところに感心します。これからも、家庭薬メーカーさんには採算を度外視してでも定番商品を作り続けてほしいものです。

あとは、街の薬屋さんを応援してほしい。街の薬屋さんには駄菓子屋のような楽しみがあって、店頭に並んだ特売品だけじゃなく、店の奥にはおもしろいものがたくさんあるんです。街の薬屋さんを育っていくような販売戦略をアドバイスしたり、手助けしたりするシステムを作ってほしいと思います。

——宣伝や広告という意味ではどうでしょうか。

全体的に見て、家庭薬メーカーさんは宣伝に力を入れていると思います。テレビコマーシャルで好きなのは「太田胃散」かな。BGMにショパンの前奏曲「イ長調」を使うなんてしゃれてますよね(笑)。薬にとって広告は効き目と同じぐらい大切だと思います。

町田さんのご厚意により、絶版となった『仁丹は、なぜ苦い?』を10名の方にプレゼントいたします。詳細は編集後記をご覧ください。

# 日本人の生活史を彩り、文化を形成してきた家庭薬

『薬局通』著者 唐沢俊一さん

薬局のなんたるかを知らずして、薬の本音は語れない。薬局育ちでサブカルチャーの達人、唐沢俊一さんが繰り広げる話は薬と日本人の関係にまで展開していく。

## セルフメディケーションの最前線

——ご実家が薬局を経営されていますね。

そうなんです。だから、薬に関する雑学知識が自然と身につきました。実家に薬関連の業界紙などが届いていたんですが、どれも内容が固いんですよ。薬について書かれた本も薬剤師さんが書いた実用書がほとんどで、柔らかいものがなかった。だから、おもしろいエッセイを書きたかったんです。本や服を選ぶのと同じように、かぜ薬ひとつ選ぶにもその人なりの理屈があり、アイデンティティーがあるのに、そのことに気がついて書く人がいなかつた。

——本書では薬局をクローズアップしていますね。

薬局はセルフメディケーションの最前線。薬局での相談は人生相談でもあるんです。そういう意味では、都会の薬局からイスがなくなり、会話が減っているのは残念ですね。薬局は地域に密着した存在であってほしいものです。

大正時代には、店独自の小冊子を作るお店もあり、薬屋さんは時代の最先端にいたのに、今は元気がないですね。そこで働く薬剤師の仕事も多彩でおもしろいのに、まじめで秀才型の地味な人が多く、その仕事のおもしろさやユニークさを

宣伝できていない。そのことは製薬会社にも

### 唐沢俊一 薬局通



#### 『薬局通』

(ハヤカワ文庫 500円+税)  
日本人と薬のかかわりあいを、街の薬局といういわば最前線で観察しながら考える本。誰もが知ってるつもりでじつは知らない薬局に関する知識が満載されている。



**唐沢俊一**  
(からさわ・しゅんいち)  
1958年、北海道生まれ。昭和におけるB級カルト物件を現在の視点で捉えたおす作業がライワーク。エッセイ、マンガ原作、トークライプと幅広く活躍中。主な著書に『ブンカザソロ』『エンターブレイン』『唐沢俊一のキッシュの花園』(メディアワークス)などがある。現在、「Web現代」(<http://kodansha.cplaza.ne.jp/>)に「唐沢俊一の裏モノ見聞録」を連載中。

いえますね。研究職以外の人材も薬学系(理系)から集めようという動きがあるせいか、地味傾向に拍車がかかっている気がします(笑)。

## 家庭薬は日本的一部

——家庭薬もどちらかといえば地味な薬だと思うのですが。

薬は病気を治すことだけが能ではないと思うんです。置いてあるだけで安心する、それが家庭薬ですよね。成田空港内の薬屋さんに「たこの吸出し」が置いてあるのを見て感動したことがあります。海外に飛び立つ人が安心感を求めて手にしていくのでしょうか。梅干などと同じように、家庭薬が日本の一品になっている現れ。新製品にはない効能です。

——家庭薬はわれわれ日本人の生活に寄り添ってきたということでしょうか。

家庭薬は日本を代表する商品だと思うんです。海外にはここまで多彩な売薬文化はなく、世代確認や人格形成にまでかかわるほどのものはないですからね。薬好きの日本人のアイデンティティーの一部になっていると思います。健康の一助になることで日本人の生活史を彩り、文化を形成してきたんですから、家庭薬メーカーはそのことに自信を持っていいと思います。若い人も安心して飲める家庭薬の時代がまた来てほしいし、来るはずです。

——応援していただいて心強く感じます。

家庭薬に限らず、薬の歴史は人間的好奇心やバイタリティーの歴史だと思います。製薬会社のみなさんには創業者のチャレンジ精神を忘れずにいてほしいですね。

『正露丸のラッパ クスリの国図像学』著者  
田中聰さん

# 自家庭薬は自己管理の道具。自分で治すところに価値がある

成分や処方だけじゃない、パッケージにだって薬効はある。昔の薬にまつわる意匠の世界は標識みたいに謹厳実直、だけどちょっとかわいらしい。奥が深いことこの上ないのだ。賢人、田中聰さんに薬物図像学を学ぶ。

## かわいらしい昔の薬

——昔の薬のパッケージを集めた本ですね。

健康や衛生思想というテーマで文章を書いてきましたが、その関心の入り口が薬のパッケージだったんです。置き薬が盛んな富山県の出身なので、小さいころから薬になじみはありましたが、薬そのものというよりも、むしろそのパッケー

ジデザインに興味があったんです。だから、薬についてはパッケージデザインの楽しさやかわいしさを伝えたかった。そこで生まれたのがこの本です。本書に掲載されたパッケージやおまけは、自分のコレクションの一部です。古書店や古道具屋、地元(富山県)の人などから買い集めたのですが、バブル期を境にかなり値上がりしたので、最近は集めなくなりました(笑)。

——薬のパッケージのおもしろさはどんなところにあるのでしょうか。

薬のパッケージデザインは、デザインのためのデザインではなく、標識のようにメッセージを伝えるためのデザインではなくてはなりません。一方では安っぽいおかしみもあって、その先になにかが見えてくるからおもしろいんです。また、暗示によって薬の効果を高めるのにも一役買っています。とくに置

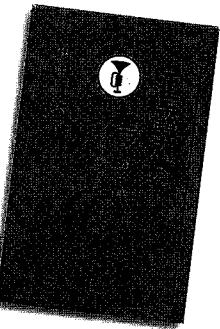


田中聰(たなか・さとし)  
1962年、富山県生まれ。荒俣宏氏の助手などを経て文筆業。日本近代の身体観をテーマに活躍中。主な著書に「超人」へのレッスン(中央公論社)、「名所探訪 地図から消えた東京遺産」(祥伝社文庫)などがある。現在、「小説NON」に「東京発! 日本はじめて物語」を連載中。

## 『正露丸のラッパ』

(河出書房新社:品切れ)

薬効は、名前やパッケージデザイン、広告表現や五感に訴える全体のイメージによって支えられている。愛しくなってしまうようなかわいいパッケージや広告を集めた図版本意の本。



## 『健康法と癒しの社会史』

(青弓社: 2600円+税)

「健康である」とはどんな状態なのか? 日本で行われたさまざまな健康法や一部の民間療法の歴史をひもといで、その情熱とおかしさを紹介し、日本近代の身体観=生命観を凝視する。

き薬のパッケージデザインは記号性が強くて興味深いですね。

## パッケージデザインも薬効のうち

——古いパッケージのデザインに魅力を感じているようですが。

現在のパッケージデザインは、昔のようなおもしろみがないんです。昔のパッケージデザインは今のものとはセンスが違います。スマートじゃなくて、キツチユで、時代を感じさせるデザインがおもしろい。最近のものは印刷方法も含めておもしろみがないですね。昔から薬のパッケージは先端的なイメージを取り入れたデザインを施してきたし、現在も施しています。でも、定番商品は別で、デザインが新しくなったら薬効が弱まるような気がします。薬はパッケージデザインも薬効のうちなのです。

——家庭薬についてはどうに考えますか。

家庭薬は自己管理の道具です。病院で施される医療とは違って、任せではなく、自分で治そうというところに価値があると思います。

近代以降の科学主義では、身体を機械として捉るために、病気になったり調子が悪くなるとその部分を修理しようとなりますよね。でも、昔は病気になっても大部分の日本人は医者に行けなかったし、行かなかった。今とは違う身体観を持っていたんです。私たちは病を異常なこと、悪いこと捉えるのではなく、昔のように生きることの一部と考えるべきでしょう。失った身体観の回復が現代人には必要だと思います。

# お家庭薬はそこにあるだけで安心できる

『ドラッグストアへ行こう』著者 中澤天童さん

本はもちろん、映画や雑誌などさまざまなフィールドで活躍中の作家、中澤天童さん。薬業界紙記者の経験があり、薬やドラッグストアには人一倍強い関心を抱いている。

## あなたのおそばに

——まず最初に本書を執筆されたきっかけを教えてください。

一般の人は、薬について知っているようで知らないですよね。薬屋さんについても同じで、白衣を着ている人はなにものなんだろうかとか、薬屋さんをどうやって利用していいのかも分からず。だから薬屋さんについてのエッセイを書いてみたかったのです。

——薬についてはどんなイメージを持っていますか。

医療用の薬と大衆薬は違いますよね。前者が「治すもの」なのに対して、後者は「必要なもの」という感じがします。とくに家庭薬メーカーさんの薬は、親しみがあつていつもそばに置いておきたいものが多いです。そういう意味では、家庭薬はセルフメディケーションの入り口にある製品だと思います。

スイッチOTCは、疾患が進行して本当に必要になったときに使いますが、家庭薬は日常的な疾患をやわらげるときに使う薬、プライマリーケアのための安心できる薬ですね。

——「安心」が家庭薬のキーワードになるのでしょうか。

そうですね。そこにあるだけで安心できるお守りのようなものです。



『ドラッグストアへ行こう。』  
(徳間文庫: 495円+税)  
街を歩けばドラッグストアが目に入り、CMの歌をつい口ずさんでしまう。行くだけで誰もが楽しめ、美しくなれる(?)ドラッグストアの秘密を解き明かす小説仕立てのエッセイ集。本書を原作とした映画を製作準備中。



中澤天童  
(なかざわ・てんどう)

1959年、愛知県生まれ。『相対性名古屋理論』で名古屋本ブームを巻き起こす。著書に「日本昔ばなし」再発見!』(宝島文庫)、『首都は名古屋で決まりだぎゃあ!』(講談社文庫)など多数。現在、現実と架空の話が入り交じる小説「Pure Venus」を「Weekly びあ」に連載中。

キャッチフレーズをつけるとすれば「あなたのおそばに」かな。それほど親しみがある薬です。

思えば家庭薬にはずいぶんとお世話になってきました。「カワイ肝油ドロップ」は今でも子どもと一緒にかんでるし、「トクホン」は妻が愛用しています。「たこの吸出し」は子どものころによく使ったなあ。お尻にできたおできに貼ると、一週間ぐらいで膿が出てきた。膏をはがすとおできの先がポツンと富士山のように突起していて、そこをブッシュとしたときの快感は最高でした(笑)。

## 薬屋さんの名脇役

——家庭薬に不満な点はないですか。

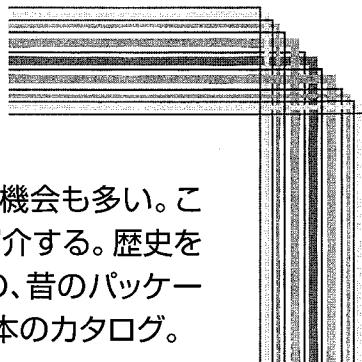
家庭薬は安心できる薬である反面、頼りがいがないんですよね。効き目の具体的なイメージが湧かない。あと使い分けやTPOをハッキリさせてほしい。湿布薬でも温めるものと冷やすものがあるけれど、どういうときにどっちを使ったらいいのか分からなくなったりします。

——本書でメインテーマになっているドラッグストアにとって、家庭薬はどういう商品なのでしょうか。

販売量こそ多くないけれど、売上が計算できる商品でしょうね。リピーターが多いので欠品できないし、棚にないと絵にならない。家庭薬を置いていない薬屋さんなんて想像できないでしょう?

主役ではないけれど、名脇役のような存在だと思います。映画でいえば「男はつらいよ」で御前様役の笠智衆。テレビドラマなら「渡る世間は鬼ばかり」のえなり君(笑)。誰もが知つて根強い人気がありますよね。

# 家庭薬が登場する本のかタログ



まだまだある、家庭薬の本。

長い歴史と伝統のある家庭薬だから、本に登場する機会も多い。ここでは、数多い関連本のなかから厳選した20冊を紹介する。歴史を語ったものから広告やキャッチフレーズを論じたもの、昔のパッケージを集めたものまで。家庭薬を知るには欠かせない本のかタログ。

<p><b>日本の名薬</b></p> <p><b>山崎 光夫</b> [著] 〈出版〉東洋経済新報社 〈発行〉2000.10 〈価格・税別〉1,500円</p> <p><b>掲載製品</b> 宝丹、太田胃散、 恵命我神散、健のう丸、トクホン、 浅田飴、鼻瘻、龍角散、喜谷実母散、中将湯、救心、大木五臓圓、養命酒、宇津救命丸、大学目薬</p>	<p><b>伝承薬の事典</b></p> <p><b>鈴木 稔</b> [著] 〈出版〉東京堂出版 〈発行〉1999.2 〈価格・税別〉2,400円</p> <p><b>掲載製品</b> 喜谷実母散、中将湯、宇津救命丸、大木五臓圓、 龍角散、浅田飴、大学目薬、太田胃散、 仁丹、正露丸、養命酒</p>	<p><b>江戸の炒薬</b></p> <p><b>鈴木 稔</b> [著] 〈出版〉岩崎美術社 〈発行〉1991.11 品切れ</p> <p><b>掲載製品</b> 喜谷実母散、宇津救命丸、浅田飴、大木五臓圓、 大学目薬、中将湯、養命酒</p>
<p><b>日本の伝統薬</b></p> <p><b>宗田 一</b> [監修] 〈出版〉主婦の友社 〈発行〉1989.2 品切れ</p> <p><b>掲載製品</b> 中将湯、喜谷実母散、宇津救命丸、救心、恵命我神散、太田胃散、 宝丹、大幸正露丸、健のう丸、大木五臓圓、わかもと、養命酒、仁丹、龍角散、浅田飴、 恵瘻、大学目薬、キンカン、吸出し青膏</p>	<p><b>日本の名薬</b></p> <p><b>宗田 一</b> [著] 〈出版〉八坂書房 〈発行〉1981.10 〈価格・税別〉2,400円</p> <p><b>掲載製品</b> 宝丹</p>	<p><b>くすりの歴史</b></p> <p><b>岡崎 寛蔵</b> [著] 〈出版〉講談社 〈発行〉1976.5 品切れ</p> <p><b>掲載製品</b> 宝丹、仁丹、ロート目薬、大学目薬、 龍角散、中将湯、浅田飴、健のう丸、カワイ肝油ドロップ、ユベラ、わかもと</p>
<p><b>このクスリがすごい?</b></p> <p><b>データランド・メディカ</b> [編] 〈出版〉原書房 〈発行〉1998.10 〈価格・税別〉1,200円</p> <p><b>掲載製品</b> 太田胃散、新Vロートプラス、大学目薬、養命酒、 防風通聖散、ユベロン</p>	<p><b>お薬グラフティ</b></p> <p><b>高橋 善丸</b> [著] 〈出版〉光琳社出版 〈発行〉1998.4 絶版</p> <p><b>掲載製品</b> 浅田飴、健のう丸、中将湯、大学目薬、 仁丹、毒掃丸、宝丹、宇津救命丸、大学目薬、 ロート目薬、守妙、シッカロール</p>	<p><b>蚊遣り豚の謎</b></p> <p><b>町田 忍</b> [著] 〈出版〉新潮社 〈発行〉2001.6 〈価格・税別〉950円</p> <p><b>掲載製品</b> アース渴巻香、 アースノーマット、 ごきぶりホイホイ、 太田胃散、仁丹、吸出し青膏、中将湯</p>

薬の秘密



唐沢 俊一 [著] <出版> 翔泳社 <発行> 1995.6 品切れ

掲載製品

宇津こどもかぜ薬、新実効散顆粒、ワカモト便秘薬、コルテークゴールドカプセル、スカイナー感冒薬、太田胃散、フィーリン錠、カイペールC、生薬力イペール、ドクソウ丸G、センナダイオウ錠S、大甘丸、快腹丸、正露丸、プラギタン、コルテーク鼻炎スティック、スカイナーEースカプセル、スカイナ一鼻炎用S、龍角散鼻炎ソフトカプセル、メナム、アイメントP、柴胡加竜骨牡蛎湯エキス顆粒、養命酒、宇津救命丸、救心、チョコラBB、新チョコラAD、サンテFX、メンテック、中将湯、ナポレオピンD50、ブリズマホルモン精

広告キャラクター大博物館



ポップ  
プロジェクト [編]  
<出版> 日本文芸社  
<発行> 1994.11  
品切れ

掲載製品

仁丹、シッカロール、中将湯、正露丸

繁盛図案(エコノグラフティー)



荒俣 宏・  
北原 照久 [著]  
<出版>  
マガジンハウス  
<発行> 1991.3  
<価格・税別>  
3,398円

掲載製品

仁丹、中将湯、  
シッカロール、君の代、宇津救命丸、浅田飴、咳止めボンボン

広告図像の伝説



荒俣 宏 [著]  
<出版> 平凡社  
<発行> 1989.8  
<価格・税別> 1,437円

掲載製品

中将湯、仁丹、守田宝丹、大木五臓圓

キャッチフレーズの戦後史



深川 英雄 [著]  
<出版> 岩波新書  
<発行> 1991.11  
品切れ

掲載製品

イチジク浣腸、龍角散、キンカン、トクホン、養命酒、龍角散トローチ

ロングセラー商品 爰される秘密



平成暮らしの  
研究会 [編]  
<出版>  
河出書房新社  
(文春文庫)  
<発行> 1998.8  
品切れ

掲載製品

大学目薬、養命酒、龍角散、浅田飴、太田胃散

嘘八百!



天野 祐吉 [著]  
<出版>  
文藝春秋社  
(文春文庫)  
<発行> 1990.10  
<価格・税別> 447円

掲載製品

仁丹、大木五臓圓、龍角散、毒掃丸、中将湯

また、嘘八百!! 明治編



天野 祐吉 [著]  
<出版>  
文藝春秋社  
(文春文庫)  
<発行> 1992.9  
<価格・税別> 485円

掲載製品

中将湯、大学目薬、龍角散、浅田飴、仁丹、  
大木五臓圓

またまた、嘘八百!!! 大正編



天野 祐吉 [著]  
<出版>  
文藝春秋社  
(文春文庫)  
<発行> 1993.7  
<価格・税別> 485円

掲載製品

中将湯、仁丹、浅田飴

嘘八百! これでもか!!!! 昭和編



天野 祐吉 [著]  
<出版>  
文藝春秋社  
(文春文庫)  
<発行> 1994.3  
<価格・税別> 602円

掲載製品

ノーシン、仁丹、養命酒

長寿商品の不思議



レトロ探偵団 [編]  
<出版>  
KKベストセラーズ  
(ワニ文庫)  
<発行> 1992.5  
品切れ

掲載製品

カワイイ肝油ドロップ、シッカロール、吸出し青膏

# おじいちゃんのひとりごと

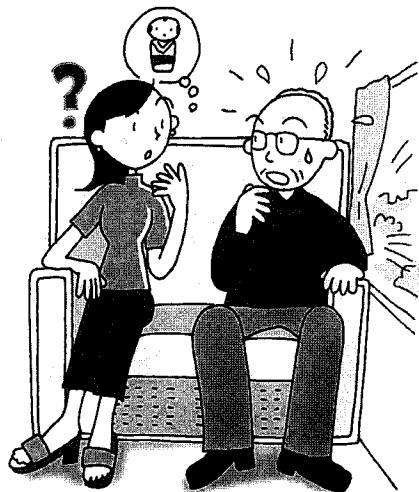
## こんな效能、 最近 聞かなくなつたのよ

家庭薬大好きのおじいちゃんがつぶやくひとりごと。  
孫娘の言動にばやき、おばあさんの身体を気づかいながら、今日もかくしゃくと過ごすおじいちゃんの話は、おもしろくてためになる。縁側でお茶をする気分で、そっと耳を傾けてみよう。

あの底の厚い靴はどこへ行ってしまったのでしょうか。平家と源氏を持ち出すまでもなく、世の中に栄枯盛衰があるのは仕方ない。しかしながら、こここのところの状況はあまりにも移り気。ひどい。私など大正生まれですから、こんなものが流行かと認識した時点では、実はもうすたれている。すたれるだろうなと思ってからすたれたのは森さんだけ。

人間は、こと体のこと健康のこととなると意外と保守的なものといわれてきた。これは今でもそのとおり。たとえば40年近く前に、ツイッギーには似ても似つかない(ウイッキーさんには良く似ている)けれど、とりあえずミニスカートだった隣家のお嬢さん。今じゃ還暦に近づいて養命酒を飲んでいる。養子の安保反対旦那も、トクホンを肩に救心を胸に早朝ソフトボールに汗を流している。「家庭薬業界好き」の私は、これは誠に良い傾向じゃと思って安心していた。ところが、以下の次第である心配が……。

孫がこの春、杜の都の薬科大学に入学を許可され、下宿(といってもマンション)探しにお供した帰り。婆さんにお土産。萩の月と、こけしでもと思った。ところが駅の売店に、こけしがない。作並のこけしがなくて、月並みな萩の月ばかり。憤慨しながらの車中、孫娘(将来は薬剤師になるはず)と生チャット中、郡山あたりでこの久美が「こけし」に興味がないばかり



か「こしき」をも知らないという事が判明しました。「ななにを一、こしきも知らずに薬科大学生だとおお、おぬし何を考えているのだ一、ばあさんのこしきをこのわしがどれほど心配したか」と言いたくなるところをぐっとこらえて話を聞いてみると「試験に出ないもーん」というのが彼女の弁明の基本。何でもこの言葉で済ませてしまおうとする風潮が許せない。それじゃ、試験に出るなら近鉄バッファローズ(以前はパールズ)の歴代6番バッターを暗記するのか。フライヤーズはどうするんじゅ。

いずれにしても、温故知新。年を取ると、この言葉を盾に若い者に昔のことを無理やりにでも教えておこう、と思うようになるものなのです。こればかりは、年を取ってみないとわからない。久美などが、知らないであろうところの症状・病状そして効能を思いつくままに並べてみた。何せ、私が使っている今治水を見て「おじーちゃーん、どうして四国の今治の水が歯にいいの一、南アルプス天然水じゃあだめなのー」と言い放った娘です。「わけわかんない」といわれそうですが。

.....  
水虫。今では知名度も100%。特に夏の薬業界は、これがないと困っちゃう。私の親父の世代じゃ、靴なんてものは大金持ちのものでした。靴の普及につれて、この虫ものし上がったという感じです。成菌なりきんとでもいうのでしょうか

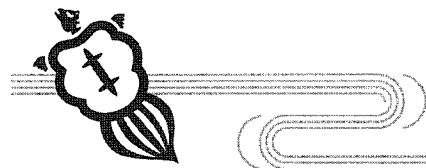
症状	よみかた	解説
瘧	おこり	毎日または隔日の一定時間に発熱する病。マラリアを指す場合が多い。
瘡	かさ(くさ)	皮膚病の総称。梅毒の俗称。
雁瘡	がんがさ	痒疹性湿疹の俗称。雁の渡来する頃から発症する。秋の季語。
肝斑	かんばん	皮膚のしみ。
気ふさぎ	きふさぎ	文学的な効能です。情緒があります。現在のトリップ薬とは違うのでしょうかね。
驚風	きょうふう	小児の脳膜炎と類似の症状。癇瘍や脳水腫をいう場合もある。
けが	けが	こんな大雑把な効能もありました。塗り薬です。
腰気(帯下)	こしけ	婦人病の症状の一つのおりもの。Coxiqe [ポルトガル語=腰の病]
酒さ	しゅさ	鼻や頬に対称に生じる慢性皮膚疾患。飲酒とは無関係。
長血	ながち	月経が長期にわたり不規則に下ること。赤帯下(しゃくたいげ)
衄血	じくけつ	鼻血。
時候あたり	じこうあたり	季節の変わりめの体調維持は今も昔も難しい。
舌こわばり	したこわばり	顔面神経痛。言語障害を伴うことが多い。
白血	しらち	白帯下。
消渴	せうかち	しょうかち。①のどが渴き小便が通じなくなる。②婦人の淋病。史記にも登場します。
疝氣	せんき	主として下腹痛。漢方では疝は痛の意味。Xenqi [ポルトガル語=睾丸の病気]
月濱	つきよどみ	墮胎薬。おろしぐすり。
盜汗	ねあせ	寝汗ならぬりますが盜汗は読みにくい。自律神経の異常による病的発汗のこと。
脳病	のうびょう	大胆な言い方ですが、脳の薬は一世を風靡しました。種類も多い。
逆上	のぼせ	上気すること。
吐下	はきくだし	嘔吐と下痢。
白帯下	はくたいげ	白帯。こしけ。「女性生殖器から分泌される白色粘液性混濁膜様の液体」—広辞苑
鼻茸	はなたけ	鼻粘膜に生じる腫脹。鼻ボリープ。
引下	ひきさげ	各種の実母散の効能にあります。のぼせを下げる。のぼせを下げる「灸」も引下。
皮癬	ひぜん	現在では疥癬(かいせん)と呼ぶことが多い。皮癬ダニが寄生して生じる痒みのこと。
骨疼き	ほねうづき	梅毒が全身に回り骨に入ってうずき痛むこと。骨がらみ、とも言う。
疖子	ほろせ(ほろし)	じんましん。Foroxi [ポルトガル語=むず痒い凝結物]
菊石	みっちや	痘痕のはなはだしいもの。引攀菊石。大阪では、めっちや。
目腐	めくされ	眼病のため目の縁がただれ汚れていること及び、そうした人。
目口ゆがみ	めくちゆがみ	中風、半身不随時の顔のゆがみのこと。
癰疽	ようそ	危険なできもの。瘻は浅くて大きいもの。疽は深くて悪性なもの。
横根	よこね	股のリンパ節にできる炎症性の腫脹。梅毒、淋病のそれを指すことが多い。便毒。
溜飲	りうふん	酸性のおくび。胸やけ。「溜飲を下げる」の成句はいまでも健在。水毒の総称。
瘰癧	るいれき	頸部リンパ節の慢性腫脹で、結核性のもの。
老衰	ろうすい	滋養強壮剤として「老衰」に効果ありと標榜しました。現在でも使いたい効能です。
寸白	すはく(すばこ)	寸白虫(=さなだ虫)による病気。また、婦人疝痛の俗称。

な。逆に、同じ白癬菌グループながら「しらくも」には昔のような力強さがない。街中しらくもだらけでしたから、しらく大統領なんていつてフランスみたいでした。皆が髪を洗うようになったし、シャンプーなんて便利なものができましたからね。また、同じグループのインキンは、かつては勇ましくも「男の病気」として名を馳せ、特に軍部及び体育会系硬派にもてはやされた「男の中の男の痒み」でした。大日本インキンなんて会社があつたぐらいです。(インキだったかもしれない)ところが戦後は、化学繊維の隆盛によって女性にも普及し、地味では

ありますが広く静かに潜行を続いているようです。この三兄弟の來し方行く末に限らず、症状界にもあまたの榮枯盛衰があります。諸行無常。江戸、明治、大正、昭和と家庭薬の効能は百花繚乱。しかし現在ではライフスタイルの変化、特効薬の発見等、によって活躍の場を失った効能が少なくありません。喜ぶべきであるかもしれないが、悲しくて寂しいような気もあります。失地回復。現代の新しい症状に対応した「安心の家庭薬」が数々登場すればいいなと、思います。

家庭薬ファン：志方和才

# 家庭薬 ロングセラー物語



## 強力わかもと



わかもと製薬株式会社

### ●「強力わかもと」起源の経緯

強力わかもの起源は1925年(大正14年)～1929年(昭和4年)に遡ります。

この頃の日本国民の栄養状態は極めて悪く、国民体位は諸外国に比較して著しく劣り、生活環境の条件も不十分であった為、結核患者や小児の死亡率が高い時代がありました。

当時、国民の栄養向上を目的として、臨床試験等の研究が行われていた栄養剤「若素」(当時エンツァイマと称した)を製品化し、国民の健康増進と乳幼児死亡率の低減を目的とした「栄養と育児の会」を設立、「わかもと」の製造販売を始めました。



初期のパッケージ▲

### ●単一酵母剤として

「わかもと」は最初ビール酵母を成分とする栄養補給を主目的とした单一酵母剤としてスタートしました。酵母がいろいろな病気にきくことは、昔からドイツはじめ他の欧米諸国で知られていきましたが、大正・昭和にかけ酵母の研究がすすみ、酵母の中にはビタミンB<sub>1</sub>をはじめ多くの栄養素が豊富にあることが認められました。

その頃の日本は、白米を主食とする食生活が中心で、そのためビタミンB<sub>1</sub>の欠乏でおこる白米病(脚気)が国民病として広く蔓延しており、国民の多くが大なり小なり栄養不足におちいっています。

した。そこでこの問題を解決するのには、ビール酵母を重要な天然ビタミンB群資源として薬用に応用し、栄養改善に役立てようと考えたのが始まりで、その後の研究においてビタミンB<sub>1</sub>欠乏主症状である脚気に驚異的にきくことが証明されました。しかしその頃発売されたビタミンB<sub>1</sub>剤は、天然物からの濃縮物で非常に高価でしたから一般の人達にはなかなか手の届くものではありませんでした。この点で「わかもと」はビタミンB<sub>1</sub>を豊富に含む酵母を錠剤として安価に販売しました。一般の人々にも入手しやすかったことから、当時酵母製剤のさきがけとして好評を博し、国民保健に大きな第一歩をしました。

### ●アスペルギルス・オリゼーNK菌(消化酵素產生菌)培養物と共に

酵母にも微量の消化酵素は含まれていますが、その後、食生活の変化とともに消化力を強める必要がでてきました。そこでビタミンB<sub>1</sub>を豊富に含む穀類胚芽に培養した麹を利用して消化力を強める方法を考案しました。胚芽は発芽のために必要な栄養分をタップリと含んでいます。「わかもと」では穀類の胚芽、特に米や麦の胚芽だけを集めてこれに強力な消化酵素產生菌であるアスペルギルス・オリゼーNK菌を固体培養し、その培養物を加えて消化力の向上を図り、成分的にもバランスのとれたものになりました。

一方、ビタミンB<sub>1</sub>に続いて種々のビタミンが発見され、ビタミンの必要性が強く認識されるようになりました。日本人の体格が欧米人に比して小さい理由はビタミンB<sub>2</sub>の不足によるということもわかり、おりから戦時中の国民体位の向上をはかるとともに慢性的な栄養不足を補うため、改良研



究が継続されました。

そのころ発見された強力なビタミンB<sub>2</sub>産生菌であるエレモテシウムアシビー菌を、胚芽を培養基として固体培養することにより多量のビタミンB<sub>2</sub>を蓄積させることに成功し、この培養物を加えることによりビール酵母からきわめてすぐれた総合ビタミン含有消化栄養剤となりました。

### ●乳酸菌培養物の複合

以上のように国民生活の変化と時代の要望に応じ、改良に改良を加えました。また「わかもと」も栄養補給と消化の二つの作用を有する医薬品として完成しておりましたが、「わかもと」を服用するとなぜか下痢にも便秘にも効くという不思議な効果があるとのことで、その理由を研究しておりましたところ、アスペルギルス・オリゼーNK菌の培養に際し、酒造用麹の培養時と同様、空气中や

室内にいる乳酸菌が自然に繁殖し、整腸作用を発揮していることがわかりました。これを分離していろいろと改良を行い、保存性が非常によい乳酸菌(フェカリス菌)の胚芽培養に成功しました。更に各種ビタミンを補強すると同時に商品名も「強力わかもと」に変更しました。

このように現在の「強力わかもと」は単なる酵母製剤ではなく、消化・整腸・栄養を目的とする有用微生物応用医薬品として、ビール酵母のみならず麹菌や生きたままの乳酸菌を配合した医薬品として完成しました。

### ●この先の1000年も生命を、健康を、見つめていきます。

いつも明るく笑顔のたえない健康家族。私たちの幸せの基本は、まず健康であることではないでしょうか。

わかもと製薬は、「医薬品の開発、生産、供給を通じ健康で豊かな社会の創造と発展に貢献する」という基本理念のもと、より良い医薬品を送り出すことを使命と考えています。

## 強力わかもと



### 効能・効果

- 胃もたれ、食欲不振、消化不良、消化不良による胃部・腹部膨満感、食べ過ぎ、胸つかえ、消化促進
- 整腸(便通を整える)、軟便、便秘、腹部膨満感
- 滋養強壮、虚弱体質、肉体疲労・病中病後・胃腸障害・栄養障害・発熱性消耗疾患・産前産後などの場合の栄養補給

### 成分・分量 27錠(成人1日量)

アスペルギルス・オリゼーNK菌(消化酵素産生菌)培養末	.....	3375.0mg
乳酸菌培養末	.....	675.0mg
酵母(ビタミン補強)	.....	2497.5mg
(ビタミンB <sub>1</sub> ...3.4mg、ビタミンB <sub>2</sub> ...2mg、ニコチン酸アミド...2mg)		

### 用法・用量

成人(15歳以上) .....	.....	1回9錠
11歳以上15歳未満 .....	.....	1回6錠
8歳以上11歳未満 .....	.....	1回5錠
5歳以上 8歳未満 .....	.....	1回3錠

1日3回食後に服用してください。

### 希望小売価格

144錠(分包) .....	.....	550円
300錠(瓶入り) .....	.....	1,000円
1,000錠(瓶入り) .....	.....	2,500円

# インターネット利用状況アンケート結果

インターネット委員会  
委員長 大泉高明

日本におけるIT(情報技術)の推進が、コンピューターとはおよそ縁のなさそうな森前首相によって行われると聞いたときは、正直な話、これで日本のITは大丈夫なのだろうかと心配した。しかし、蓋を開けてみると政府の予測や施策とは関係なしに、日本におけるインターネット人口は爆発的に増えていった。ご存知の通り、iモードに代表される携帯端末によるインターネット人口の爆発的増加である。親指族<sup>注)</sup>と言えば10代の若者と相場は決まっていたが、最近では電車の中でおぼつかない手つきで携帯電話を扱っている中高年も出現し始めた。

少し前まではPCの普及台数、インターネット人口、高速回線網の整備などITのインフラとなる部分で、日本は欧米から10年以上遅れているといわれていた。しかし、最近になってインフラの整備も急速に進み、それに加えて携帯電話によるインターネット普及が急速に進んでいる。日本は携帯電話の普及率では欧米をはるかに凌ぐものがあり、インターネット普及率で逆転の可能性も出てきた。時代はITを軸に、予想をはるかに越えた速さで変化しつつあるのを実感する。

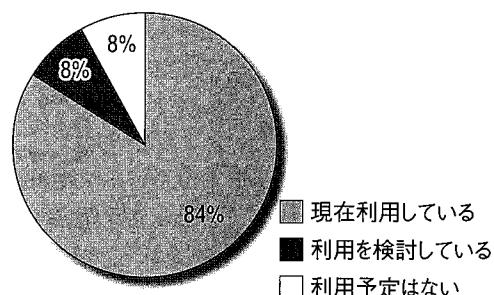
さて、このような時代背景の中で「21世紀の組合の活動」もインターネットを活用した展開が必要不可欠になると考えられる。現在、当組合においてもホームページの開設、掲示板、Eメール機能の活用に取り組んできたが、今後の更なる充実が求められている。このため、組合加盟会社の現状および要望などを正確に汲み取り今後の組合活動の基礎とするべく、全組合加盟会社を対象に「インターネット利用

状況並びに組合開設のホームページに関するアンケート調査」を実施した。

## I. インターネット利用状況について

今後、インフラとしてのインターネットを積極活用した活動を展開するにあたり、組合加盟会社のインターネット利用状況を正確に把握する必要がある。このため、アンケートではインターネット利用の有無をはじめ、Eメールの使用状況、接続方法、ホームページ開設の有無等の項目につきアンケートを実施した。対象組合加盟会社60社に対して行ったアンケートに53社からの回答を得た。

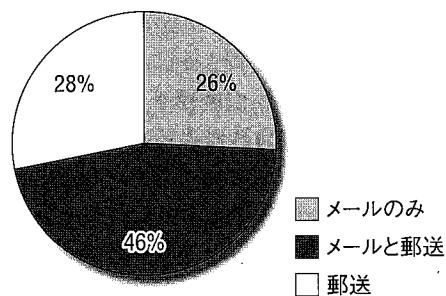
### インターネットをご利用になっていますか



この結果、回答を得た53社のうち45社(84%)がすでにインターネットを利用しており、利用を検討中の組合加盟会社を加えると49社(92%)に上った。また、インターネットを利用するための機器はパソコンが35社(81%)と大部分であったが、携帯電話との併用利用も8社(19%)あり、時代を反映していた。Eメールの利用状況もインターネットを利用している

組合加盟会社のうち、会社名または社員名でメールアドレスを持っている会社は41社(91%)あり、ほとんどの会社でEメールを利用していた。それにもかかわらず、「今後の組合からの通知の仕方」についての質問には、「基本的にメールのみの配信でよい」と回答したのは回答45社中わずか12社(26%)であり、その他は郵送が必要との回答であった。

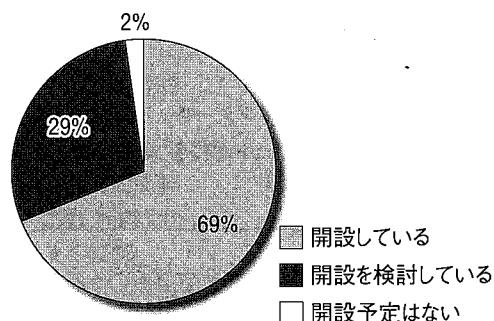
#### 今後の組合からの通知の仕方



これには個々の組合加盟会社の個別事情もあるかと思うが、Eメールも便利な反面、各会社の既存のシステムに十分に馴染んでいない過渡期的状況を反映していると推測される。

ホームページの開設に関しては、回答48社中すでに開設している組合加盟会社は33社(69%)であり、今後開設を検討している組合加盟会社14社を含めると47社(98%)となり、ほとんどの組合加盟会社がすでにホームページを持っているか、開設を検討中であることがわかった。

#### ホームページを開設しておられますか



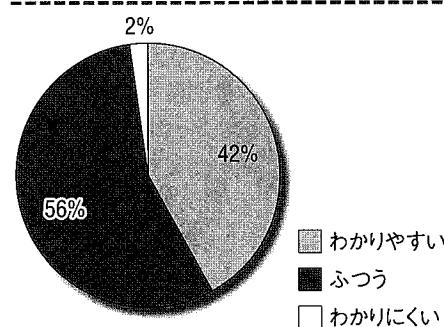
ホームページ開設推進のための説明会の必要性についてのアンケートに対しては、関心が高かったため、去る6月6日、当組合会議室において説明会を実施し、10社の参加があった。

日本全体のインターネット利用状況も、数年前と較べると隔世の感があるが、組合内においてもインターネット利用が急速に進んでいることがわかった。紹介はできなかったが、インターネット接続のインフラ整備も進んでおり、常時接続、社内LANなど接続環境の改善が目立った。

#### II. 組合開設ホームページについて

すでに開設されている当組合のホームページについて、初めてのアンケート調査が行われた。調査はページのデザイン、内容についてを行い、内容については具体的な項目ごとに設問を設けてアンケートを行った。

#### ページ構成はいかがですか



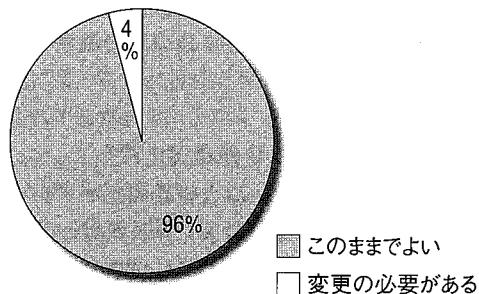
ページ構成については回答48社中、「わかりやすい」と回答したのが20社(42%)で、「ふつう」が27社(56%)で一番多かった。その他、画像の大きさ、文字の大きさ、情報量についての設問に対しては概ね「ちょうどよい」という回答であった。

東家協のホームページに対する具体的質問では、「東家協の紹介」、「関連リンク集」、「組合員のプロフィール」、「伝統薬ロングセラー物語」、「疾患別加盟会社製造製品紹介」、「更新情報」について調査した。

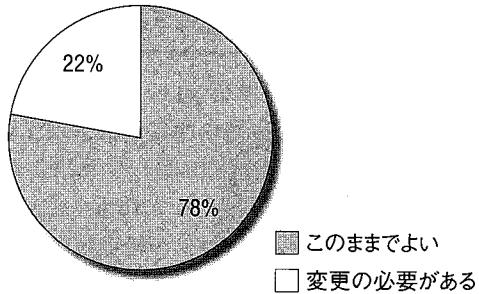
## インターネット利用状況アンケート結果

この結果、一番評価が高かったのが「伝統薬ロングセラー物語」で、内容について「このままでよい」と回答したのが45社中43社(96%)であった。反対に一番評価が厳しかったのは「組合員プロフィール」で、「このままでよい」が45社中35社(78%)であり、「変更の必要がある」が10社(22%)あった。

### 伝統薬ロングセラー物語(内容)



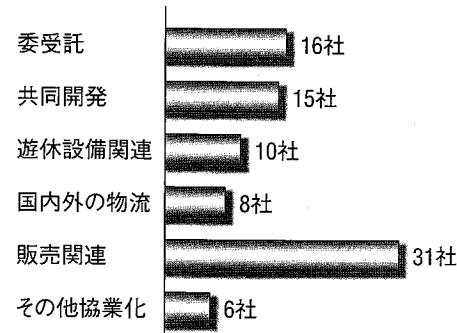
### 組合員プロフィール(内容)



その他の項目については80~90%程度の回答が「このままでよい」となっており、概ね現状に不満はないようであった。今後のホームページに対する期待については、「充実して欲しいページはどれですか」に対しては、「疾患別製品紹介」が17社でトップ、「関連リンク集」が11社で二位だった。「追加して欲しいページ」では、「製品紹介」が27社でトップだった。

パスワードを管理して、機密保持が担保されるのを前提に、興味のある協業化情報の項目について質問した結果、「販売関連」が31社で一番多く、「委受託」16社、「共同開発」15社と続いた。

### 興味ある協業化の項目



今回のアンケートで明らかになったのは、当組合のホームページが開設された約3年前と比べても組合加盟会社のインターネット環境は急速に整いつつあることである。反面、今後もインターネットの利用を考えていない加盟会社も1割弱だがあったことも事実である。導入している加盟会社においてもその利用の方法や程度は相当にバラツキがあるものと思われる。今後、日薬連からの通知等もホームページでの配信にかえられる方向にあるなど、この業界においてもITに対する対応は否応なしに迫られる状況にあるが、対応が遅れると情報化の波に企業も組合も乗り遅れ、情報格差が生まれる可能性がある。

組合ホームページに対するアンケートでは、大きな不満がないことが確認できたが、全体の構成から始まり、細かな作りこみまでブラッシュアップの必要がある。

本アンケートの詳細については当組合ホームページ上の掲示板に掲載してあるので参考にして頂きたい。今後、アンケートの結果を詳細に分析し今後の委員会活動に生かしていくたい。

注)携帯電話を使ったインターネット接続で、携帯電話のキーを親指一本だけで高速に操作する人たちのこと(俗称)



当組合ホームページアドレス  
<http://www.tokakyo.or.jp/>

# 薬事トピックス

## 厚生労働省ガイド ——厚生労働省の発足と薬事関係行政業務

東京都家庭薬工業協同組合事務局

政府の行政組織の簡素化を指向した中央省庁再編により、本年1月6日から厚生省と労働省が統合し、厚生労働省が設置されました。今回の再編は大幅なものであり、単に省と省が統合したと言うだけにとどまらず、業界と関わりの深い課の業務の転移なども含まれております。組合員の皆様が業務上の必要から厚生労働省を訪問する際の、予備知識として概略をご説明します。

医薬品事業を行う業界の一員として当組合員の皆様方にも、従来厚生省で行っていた医薬品行政の具体的な業務が、どのように変わったのか関心のあるところだと思います。

近年の医薬品行政は、厚生本省と国立医薬品食品衛生研究所医薬品医療機器審査センター及び厚生省の業務の一部を委託されている医薬品機構の三者にまたがって行われており、複雑化していました。この関係は今回の厚生労働省の発足によても変わりありません。

従って主な変更は旧厚生本省に係る部分になります。家庭薬の薬事行政に關係のある部局について示すと左下表の通りです。(平成13年1月12日付、都薬工発第137号参照)

なお、従来薬事行政は都道府県に委譲されている業務を除き、厚生本省と都道府県庁の關係で行われていましたが、厚生労働

省の発足により地区麻薬取締官事務所と地方医務局が統合され、新たに北海道、東北、関東信越、東海北陸、近畿、中国・四国及び九州の7つの地方厚生局が設置され、許可業務を中心に業務が委任されましたので注意しなければなりません。(平成12年12月20日付、都薬工発第126号参照)

なお、本年5月より医薬局の内、審査管理課、化学物質安全対策室、血液対策課及び医薬品副作用被害対策室の各課・室は5階に、局長室、審議官室、総務課、医薬情報室、安全対策課、監視指導・麻薬対策課の各課・室は6階に、また、医政局の経済課及び研究開発振興課は13階に移転していますのでご注意ください。

### 旧組織

- 厚生省**  
〔医薬安全局〕
  - 企画課  
医薬品副作用被害対策室
  - 審査管理課  
医療機器審査管理官
  - 安全対策課  
安全対策企画官
  - 監視指導課
  - 麻薬課  
麻薬対策企画官
  - 血液対策課
  - 〔健康政策局〕
    - 経済課
    - 研究開発振興課

### 新組織

- 厚生労働省**  
〔医薬局〕
  - 総務課  
医薬品副作用被害対策室  
医薬情報室
  - 審査管理課  
医療機器審査管理官  
化学物質安全対策室
  - 安全対策課  
安全対策企画官
  - 監視指導・麻薬対策課  
監視指導室  
麻薬対策企画官
  - 血液対策課
  - 〔医政局〕
    - 経済課
    - 研究開発振興課

# 委員会だより

## 総務委員会

委員長 牧田 潔明  
(わかもと製薬株式会社 社長)

4月12日に総務委員会（委員長 わかもと製薬株式会社社長 牧田潔明）と財務委員会（委員長 株式会社金冠堂社長 山崎 寅）の合同委員会が開催され、かねてより懸案になっていた両委員会の統合再編について検討した結果、本年度より両委員会を統合し、新たに総務委員会として新発足することについて両委員会全委員の同意を得、理事会に諮ることとしました。

次いで、平成12年度事業報告及び決算、平成13年度の事業計画及び収支予算等に関する通常総会上程案について検討を行ない理事会の審議を経て、5月25日の薬業健保会館における総会で承認されました。

既に配布済みの総会資料などによりご承知のとおり、組合財務については、組合員の皆様のご協力により健全な内容を維持しております。

また、新しい総務委員会は5月10日に開催された理事会において承認され、委員長として牧田潔明が就任したほか、6名の委員が新たに委嘱されました。厳

しい環境にある家庭薬業界の健全な発展のため、理事会、組合の各委員会などとも連絡を密にして活動するよう務めますので組合員皆様のご協力をお願い致します。



## 薬事委員会

委員長 佐々木 康彦  
(株式会社トクホン 取締役研究開発部長)

最近の薬事委員会に関連いたします活動状況等につきまして、その概要を以下にお知らせ致します。

### [1] 平成14年度の「規制緩和に関する要望について」

各団体からのアンケートを集計し整理検討を行っております。

### [2] 日薬連の薬制委員会の正副委員長会の中に一般用分科会を設置

一般用医薬品問題について検討するワーキング・グループ会を構成(各団体よりメンバー選出)し、本年3月9日に第1回のワーキング・グループ会を開催しております。

検討項目：Pseudoephedrineの基準収載の可能性について

今後の進捗状況に注視してください。

### [3] 薬事制度検討委員会の活動状況について

本年9月頃を指標に以下の事項について、報告書を作成する予定になっております。

#### (1) 承認の更新制について

#### (2) 日本薬局方のあり方について

#### (3) 表示・広告・情報提供のあり方について

#### (4) 全面委託について

#### (5) その他

### [4] 医薬品添加物の記載に関する自主申合せについて

日薬連の薬制委員会で当該案件に関する以下の通知(案)を検討中です。

**(1) 適用対象**

① 医療用医薬品添付文書及び一般用医薬品添付文書

② 一般用医薬品の外箱（又はこれに代わるもの）

但し、医療用体外診断用医薬品、一般用検査薬及び製造専用医薬品（調剤用医薬品を除く）は除外。

**(2) 適用時期**

記載名の統一（簡略名を含む）について平成14年3月までに検討を終了し、その後2年を経過措置期間として実施する。

**(3) 医療用医薬品添付文書及び一般用医薬品添付文書への記載****① 記載成分及び記載内容**

a) 承認書（成分及び分量又は本質欄）記載内容の範囲内で原則として全添加物成分を記載する。

**b) 剤型別記載内容**

- 注射剤：原則として全添加物成分の名称と分量（量又は割合）を記載する。他

- 内用剤：原則として全添加物成分の名称を記載する。他

- 外用剤：原則として全添加物成分の名称を記載する。他

**② 記載場所及び記載方法****a) 添加物の記載場所**

- 医療用医薬品：組成・性状の項

- 一般用医薬品：成分及び分量の項

**b) 記載方法**

有効成分と明確に区分して「添加物として○○○、△△△を含有する」

**(4) 一般用医薬品外箱（又はこれに代わるもの）の記載****① 記載成分及び記載内容**

a) 一般用医薬品自主記載指定成分を記載する。

b) これら以外の成分は可能な限り記載する。記載不可能な場合は「これら以外の添加物成分は、添付文書をご覧ください」とする。

**② 記載場所及び記載方法****a) 記載場所**

原則として外箱（又はこれに代わるもの）の有効成分名、含量を記載している場所とする。

**b) 記載方法**

有効成分と明確に区分して「添加物として○○○、△△△を含有する」

c) 記載スペースの狭い小容器又は見本品については、これに添付又は付属する文書に記載する。

## GMP委員会

### 委員長 池上 進

（救心製薬株式会社 生産部門長補佐）

### [1] GMP研修会

本年も恒例によりGMP研修会を10月25・26日に日本化薬株式会社、高崎工場で行う予定にしております。GMP関連の情報交換の場として活用したく、みなさまの参加をお待ちしております。

### [2] 最近の動向

5月までの日薬連の情報を簡単にお知らせします。

#### (1) 第21回「医薬品GMP研究会」について

10/30東京、11/5大阪、11/7富山の3会場で実施される予定です。テーマは分析バリデーション、異物混入で参加費は6,000円です。

#### (2) 医薬品GMP事例集の改訂について

S 0～S 6（前半）と S 7～H 7（後半）について検討し、前半の最終案がまとまり厚生労働省に改訂理由を個々に説明をおこなって提出したが、当局からの意見があり、現在見直しを行っている。後半の見直しを行い、最終案を9月末に提出する予定である。主な改訂は「生物学的製剤」「コンピュータ利用」「ロット」「3責任者」である。

#### (3) 厚生科学的研究について

##### ① ICH原薬GMP

昨年11月のICH－5/EWG：第5回医薬品規制調和国際会議／専門家作業部会（サンジェ

ゴ)において最終合意され、ステップ4へと進展した。国内的な運用にあたって本ガイドの日本語への翻訳及びQ & A集の作成が当局を中心に進められている。6月以降局長通知として出され、7月に厚生労働省と説明会を開く予定にしている。

② 不純物プロファイルについて

ICH-5Pでステップ4に到達した原薬GMPでは、不純物プロファイルによる製造管理の重要性が明記されている。不純物プロファイルについて企業の考え方などをアンケート調査し不純物プロファイルの同等性評価基準案を作成した。

(4) 医薬品の回収について

非無菌製剤で生体由来物が混入した場合、回収する旨が示されている。特に毛髪混入については一考の余地があると思われ、一律的に回収することが妥当か否かを判断する根拠として実態調査を行った結果をまとめ、5月9日付で「医薬品の回収に係わる調査結果について」を厚生労働省に要望書として提出したが、要望書としては受理されず、参考とされるに止まった。



20世紀から21世紀へ新しい大きな時代の変化の中で、現在日本のビジネス環境は50年で一度、あるいは100年に一度の大変化の真っ只中にあります。

[1] 50年に一度の変化

戦後、一貫して広がっていた拡大市場を前提とした経済の崩壊、市場の成熟化と縮小⇒消費者の多様化

[2] 100年に一度の変化

明治維新以降の政府主導による「製品」供給を中心とした市場運営体制の崩壊⇒規制の撤廃／規制緩和、加えて今日の景況は非常に不透明で混沌とした状況が続いております。

また、薬業界も加速的に変化し「何が起こっても不思議でない」状況下にあります。

卸業界の再編問題、小売業界のグループ化(合併、業務提携等)、量販店の異常乱競争等、すべてに予断を許さない厳しい環境となっております。

このような情勢の中で、6月5日に全家協・流通委員会が開催されましたので、その内容と流通に関する問題について、ご報告申し上げます。

(1) 流通委員会から全家協常任理事会に提案した流通問題

- ① センターフィー問題に対するメーカーの対応策
- ② 商品の適正配置と返品問題
- ③ 小売店に対する販売条件の対応と労務提供の問題
- ④ 卸再編に伴う債権問題及び報奨制度の問題

(2) 全家協常任理事会と親和会卸三社との会合予定

- ① 日程: 7月17日に開催
- ② 内容: 卸店の経営実態を拝聴し協議する  
(メーカーのスタンスを明確にする)

(3) 大衆薬卸協議会設立の趣旨

(平成13年1月14日設立)

① 組織

会長: 森 精志【丹平中田(株)取締役社長】

副会長: 松井秀夫【(株)大木取締役社長】

総務薬制専門委員会

【委員長: 茂木友幸、(株)茂木薬品商会取締役社長】

流通専門委員会

【委員長: 高木 脩、丹平中田(株)取締役専務】

システム専門委員会

【委員長: 渡辺晃一、(株)コバショウ取締役社長】

② 当面取り組む問題

- a) センターフィーの理論構築
- b) 物流システムにからむメーカーとの問題点の解決
- c) 返品問題、無償労働力提供の問題(業界の慣行)
- d) 公正取引委員会との連携
- e) 取引先が共通している医療用品、日用品、

家庭荒物、加工食品などの卸組合や協会との連携

- ③流通委員会が設置され、各種問題について協議される予定

## 厚生委員会

委員長 石原 道郎

(石原薬品工業株式会社 社長)

6月14日に熱海「大観荘」で、毎年恒例の組合懇親会が開催されました。当日は午後4時から組合理事会も開催され、引き続いて6時から役員、組合員多数出席のもとに楽しいひとときを過ごしました。

毎年実施している家庭軟式野球大会（第59回）は、本年も新しいチームの参加を頂き計23チームで、10月21日から毎日曜日に明治神宮外苑軟式野球場（一部試合は養命酒製造株式会社埼玉工場グランド）で開催することになりました。現在、野球委員の方々により準備が進められています。

東京都家庭薬工業協同組合ゴルフ会（TKGC）は原則的に隔月に開催されており、本年も3月、4月、6月に開催されました。最近は新しい参加者も増え組合員の親睦の場となっています。より多くの参加ご希望の方の入会をお待ちしています。

## 労務委員会

委員長 荒井 聰

(株式会社 ツムラ 人事部長)

労務委員会では、秋山錠剤、浅田飴、イチジク製薬、太田胃散、河合製薬、救心製薬、金冠堂、東京甲子社、トクホン、養命酒製造、龍角散、わかもと製薬、ツムラの13社により、7月、9月、12月、3月の年4回開催する定例会議での勉強会や情報交換を中心とした活動をしております。

今回は3月開催しました定例会議の報告をさせていただきます。

例年3月に開催します定例会議は「昇給交渉に関する情報交換」を議題とし、春闘での大手企業の要求・回答がほぼ出揃った直後である3月下旬に開催しております。今回も主要労組の集中回答日（3月14日～16日）後の3月23日（金）に開催しました。

定例会議では、世間情勢や大手企業の回答状況から参加企業の具体的な交渉状況、要求・回答内容について、幅広い情報交換がなされました。

今春闘の世間情勢は、厳しい経済・雇用情勢という環境下での労使交渉となりました。

労働側は、本格的な景気回復には、雇用や所得を改善し、将来の不安を取り除くことが必要であると主張し、今後交渉を経営側の一方的な労働条件切り下げと位置づけて対決していくという姿勢で臨みました。

また、経営側の総額人件費抑制姿勢は、今春闘も変わっておらず、日経連では、従業員の協力で企業業績が回復した場合の成果還元方法については、総額人件費への影響が限定的である賞与での配分が望ましいと強調する中で、春闘がスタートしました。

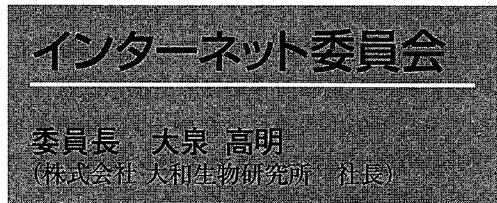
今春闘の評価はマイナスに歯止めをしてほぼ昨年並みとなりました。しかし、同一業種での横並びは崩れてきており、産業間、企業間のバラツキが目立った結果となりました。

今後は、企業毎の業績・支払能力による個別化が更に進み、春闘相場により自社の回答内容を決めていくことは困難になっていくと考えられます。人事労務担当者としては、自社の経営状況を分析し、独自の指標による回答方針・内容を構築していくということが、ますます必要になってきます。

このような状況の中、労務委員会では、環境変化と多様化に対応できるように、定例会議でタイムリーなテーマを取り上げて、勉強会や活発な情報交換・意見交換を行っていきたいと考えております。

7月に実施します定例会議では「昇給交渉総括」「賞与交渉に関する情報交換」を行う

予定にしております。



昨年9月に発足しました当委員会はほぼ月1回の会議を開催しています。本年上期は特に活発な活動をしておりますので、その状況をご報告します。

### [1] 組合員のインターネット利用状況並びに組合開設ホームページに関するアンケート調査について

表記につきまして2月に実態調査を実施しました。アンケート送付数は60件。最終回答件数は53件でした。集計結果は組合ホームページの掲示板に掲示し、また資料としても配布いたしますので、ぜひご覧ください。結果の一例をご紹介しますと、インターネットを利用されている組合員は84%。利用を検討している組合員をあわせると92%とかなり普及が進んでいることがわかります。しかし反面、組合からの通知は郵送もしくは郵送とメールの両方で配信を希望するとの回答が74%と高かったのも事実です。オンラインの利便性が十分に活かせない状況をいかに改善できるか、組合員にどのような提案ができるのか、検討しなければならない結果となりました。

また、ホームページを開設しているとの回答は33社。開設を検討している組合員が14社ありました。この組合員に開設の促進を図るため次の説明会を実施しました。

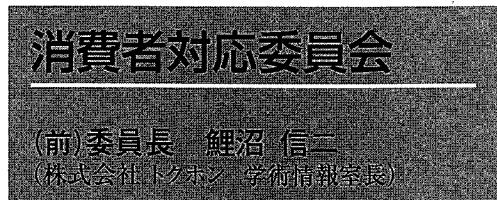
### [2] ホームページ開設斡旋説明会実施について

6月6日、組合会議室にて表記説明会を実施しました。参加は10社。

当日はホームページ導入の期待と効果やITの定義などをわかりやすく解説。また、すでにホームページを開設している組合員による事例発表も行い、開設のメリットを十二分にアピールしました。検討されている組合員のページ

が早く開設されるのを期待しています。

今後は更に組合でのインターネット及びホームページの有機的な活用について、検討並びにご提案をしていきたいと考えています。



当委員会ではこの半年、2月と5月に定例委員会を行いました。

2月の委員会では①今年の活動方針、②日薬連・消費者対応部会の概要報告、③事例研究を行い、また、5月の委員会では①日薬連・消費者対応部会の概要報告、②事例研究が主な議題でした。

今年の当委員会の活動としては例年通り研修会、大家協との合同委員会を行う事になり、研修会においては委員全員が皆様とお会いできることを楽しみにしております。お時間の許す限り奮ってご参加をお願いします。

日薬連・消費者対応部会の概要報告では、薬業界で平成6年から始めた消費者対応部会も当初の目的はほぼ達成でき、新たな活動を考えるために対応部会の親委員会である製造物責任制度委員会と合同で委員会を開催するようになりました。また、対応部会で長い間、部会長を務め、我々に色々とご指導頂いた山之内製薬の久田氏がおやめになり、新たに藤沢薬品お客様相談室長の戸田氏が部会長に就任されました。

事例研究では従来通り、委員以外の方にもご参加を頂き、2月の事例研究では三宝製薬(株)・宇塚氏、(株)山崎帝國堂・田邊氏に、また5月には大東製薬工業(株)・清水氏と(株)浅田飴・大川氏のご協力を頂き、クレーム事例について意見交換をしてまいりました。これからも続けてまいりますのでご協力をよろしくお願いします。

5月の時点で今までに当委員会で検討されたクレーム事例は36例になりましたが、将来、

これにもっと検討を加え、東家協の事例集ができればと考えております。

その他、当委員会の委員長、副委員長の交替がありました。新しい役員は（委員長）養命酒製造（株）広報部お客様相談室長・堀口登志夫氏、（副委員長）わかもと製薬㈱学術部長・新田信一氏です。新田氏は日薬連の消費者対応委員もされております。

私も平成8年、第1回消費者対応委員会から委員長として努めてまいりましたが、非才な私が大過なく過ごしてまいりましたのも、皆様のご支援の賜物と感謝しております。

なお、委員会役員は変わりましたが、東家協・消費者対応部会としては、従来通りの活動を続け、できるだけ皆様のお役に立つような情報をご提供したいと考えておりますので、以前同様によろしくご支援ください。

## 情報協業化委員会

委員長 藤井 隆太  
(株式会社 龍角散 社長)

当委員会はご多忙な中、委員各位のご協力を得て、原則的に毎月委員会を開催してきました。ここに最近の主な検討状況についてご報告します。

組合員間の物流共同化については、昨年秋以来物流専門のコンサルタントを招聘し、家庭薬業界における物流合理化の一環として、各メーカー間で卸向け物流の共同化について検討を進めた結果、第三者により客観的に業界の実態を調査把握し、今後の対応策を検討することとしました。

そのために、経済産業省関東経済産業局の所管する「平成13年度広域中小企業等物流効率化・連携支援事業（広域物流効率化推進事業）」に係わる中小企業エネルギー使用合理化設備等導入促進対策費補助金を受け、基本計画策定のための調査研究を行うこととしました。

委員会ではプロジェクトに参加する組合員の費用負担を含め、理事会の承認を得て「関

東家庭薬物流システム化協議会（代表者 藤井隆太）」を設け、情報協業化委員会委員、組合事務局、大学教授、物流コンサルタント及び運送業者の参加を得て7月17日に補助金の交付申請を行いました。

今後、交付の決定を待って平成14年3月末までに終了する予定で、具体的な調査を進めることとしています。

## 広報広告委員会

委員長 伊沢 隆司  
(養命酒製造株式会社 広報部副長)

かつての広告委員会と広報委員会が合同し、広報広告委員会として新たにスタートしました。委員会を二つの部会（広告統計資料部会：部会長=間部薰一／株金冠堂、広報誌部会：部会長=伊沢隆司/養命酒製造（株））制とし、従前からの業務を滞りなく継承していきます。

統計資料部会は集中的な活動によって、例年どおり広告統計資料を作成します。年明けには完成させ冊子として、お配りする予定です。また、その時々の「医薬品広告情報」の提供も引き続きの業務としていきます。

広報誌部会のメインの業務は、広報誌「かていやく」の編集になります。予算的な面から、あるいは人的要素によっても「かていやく」は年2回の発行が適当、あるいは、いたしかたないと判断されて来た経緯があります。しかしながら、情報提供の頻度・密度あるいは組合活動の活性化という点から考えますと、若干、淋しいという感じがします。広報誌発行という大きな動きでなく、もう少し小回りのきいた広報活動（組合内部へ向けたものですが）があっても不思議ではないと考えます。幸いにも、現在の私どもにはインターネットという文明の利器があります。インターネット委員会のご尽力によって組合ホームページも進化を続けています。この中の組合員専用ページを利用させていただき、こうしたテーマを解決できないものかと、検討を始めています。

# 事務局だより

## ●1月26日

厚生委員会の野球委員会を「はぎわら」で開催し、本年度第59回家庭薬軟式野球大会の打ち合わせを行った。参加チームは21社23チームが予定されている。試合日程は明治神宮外苑グランド(一部試合は養命酒製造株式会社埼玉工場グランドを使用)において10月21日から11月11までの日曜日を予定している。

## ●5月17日

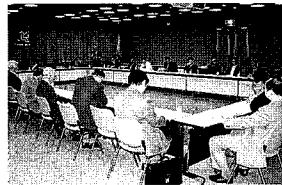
全国家庭薬協議会では、薬業健保会館において第36回定期総会を開催した。

## ●5月25日

薬業健保会館において、当組合の第54回通常総会を開催した。平成12年度の事業報告、決算及び平成13年度の事業計画、収支予算その他の議題が承認、可決された。また、塩澤護理事の辞任に伴う理事の補欠選任が行われ、養命酒製造株式会社常務取締役塩澤太朗殿が選任された。

## ●6月14日

熱海「大観荘」において理事会を開催し、引



▲第54回通常総会



▲理事会を開催(熱海「大観荘」にて)

き続き厚生委員会主催による恒例の組合懇親会が組合員多数出席のもとに開催された。

## ◆叙勲の受賞

平成13年度、春の叙勲において勲四等瑞宝章を受章されたホーユー株式会社会長・水野金平殿には、5月9日厚生労働省における伝達式に出席されました。

## ◆組合員の異動

3月31日に組合員であったニチバン株式会社及び理研薬化工業株式会社が脱退しました。これにより組合員数は46社、賛助会員を含め合計60社となりました。

## ◆訃報

守田 敬太郎殿

株式会社守田治兵衛商店代表取締役社長守田 敬太郎殿には、平成13年3月22日ご逝去され、3月27日寛永寺輪王殿において葬儀が執り行われました。

謹んでご冥福をお祈り致します。

## 編集後記

●ガングロ娘もパソコンも、2ヶ月後には陳腐化。こんな時代だからこそでしょうか、家庭薬の伝統が、話題に上る(マスコミから取材を受ける)機会が増えています。特集では、以前から我が業界の製品群に注目されていた先生方にご登場願い、貴重なお話を伺いました。

●町田先生から著書「仁丹は、なぜ苦い?」を10冊、頂戴しました。ご希望の方は、8月末までに下記へご連絡ください。抽選後お届けいたします。

(養命酒製造株式会社・伊沢)

かていやく

通巻69号 2001年7月31日

編集人：東家協広報広告委員会

発行所：東京都家庭薬工業協同組合

〒104-0061 東京都中央区銀座8-18-16

☎ 03-3543-1786 FAX 03-3546-2792

Eメールアドレス / info@tokakyo.or.jp

http://www.tokakyo.or.jp/

